

TKK 8000系 1次車 冷房化改造後仕様

Nゲージボディ5両セット未塗装組立キット

組立説明書



製品概要

TKK8000系は、1969年より製造を開始した20m級のオールステンレスカーです。界磁チョップ制御や電気指令式ブレーキ、ワンハンドルマスコンなど、現在では広く普及している技術を、一般的な旅客鉄道において本格的に採用した初の形式でした。その後、マイナーチェンジの8500系や軽量ステンレスカーの8090系と並んで増備され続け、広義の8000系列としては677両が製造されました。

nano factory では、この名車のモデル化にあたり、8000系列の中でも最初に製造された1次車の晩年の姿を選定して、3D プリントにて皆様にご提供いたします。

1次車は8001F～8009Fの5両編成5本が製造され、8000系の中でも最初期に製造されたグループです。

1次車は他の製造グループにはない特徴が色濃く残っており、特に、前面幌枠の隅が角ばった形状と、冷房化による足場確保に伴い屋根上に追設された足つきランボードは、この1次車のみの特徴です。

製品仕様

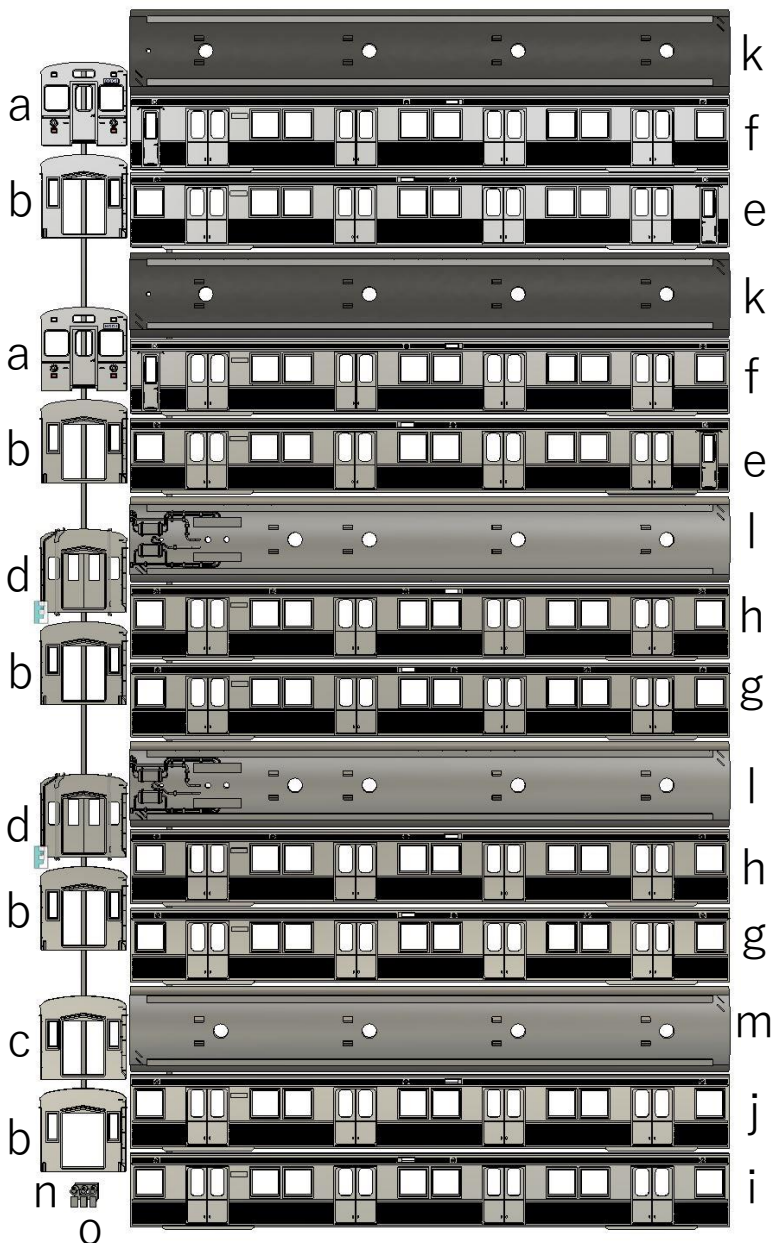
製品名：TKK 8000系 1次車 冷房化改造後仕様
Nゲージボディ5両セット未塗装組立キット

数量：TKK 8000 5両分
(クハ8000×2、デハ8100×2、デハ8200×1)

内訳：

ボディ・屋根板：

- a：前面：2
- b：妻板(配管無Dコック有)：5
- c：妻板(配管無Dコック無)：1
- d：妻板(配管有)：2
- e：側板Tc車海側：2
- f：側板Tc車山側：2
- g：側板M1車海側：2
- h：側板M1車山側：2
- i：側板M2車海側：1
- j：側板M2車山側：1
- k：Tc車屋根板：2
- l：M1車パンタ台付屋根板：2
- m：M2車パンタ台無屋根板：1
- n：避雷器(旧)：3
- o：避雷器(新)：3



別途必要品：完成には下記の社外品が必要です

- GM 8500系軽量車一体キット床板：5両分
- GM 8000系列床下機器：5両分(各自工夫のこと)
- GM TS-807台車：5両分10個
- GM PT42パンタグラフ：2
- GM RPU-2204クーラー：5両分40個
- GM 列車無線アンテナ：2
- 窓ガラス用透明板：前面・側面・妻板分
- 車体表記インレタ・ステッカー：5両分

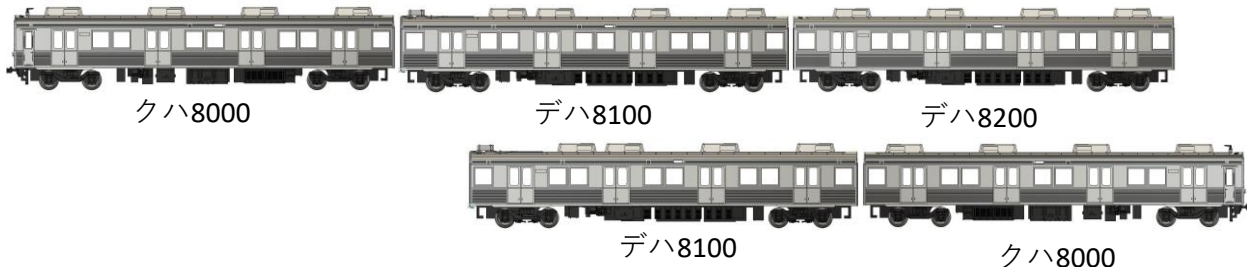
編成例

製品名：TKK 8000系 1次車 冷房化改造後仕様
Nゲージボディ5両セット未塗装組立キット

数量：TKK 8000 5両分
(クハ8000×2、デハ8100×2、デハ8200×1)

←渋谷・大井町

二子玉川・桜木町・元町・中華街→



TKK 8000系 1次車 冷房化改造後 編成例1 最晩年

←渋谷・大井町

二子玉川・桜木町・元町・中華街→

編成	1	2	3	4	5	6	7	8	備考
8001F	クハ8001	デハ8409	デハ8201	デハ8102	クハ8002				
8003F	クハ8003	デハ8103	デハ8202	デハ8104	クハ8004				
8005F	クハ8005	デハ8408	デハ8203	デハ8106	クハ8005				
8007F	クハ8007	デハ8245	デハ8107	デハ8260	デハ8137	デハ8204	デハ8108	クハ8008	最末期 伊豆急仕様
8009F	クハ8009	デハ8242	デハ8109	デハ8257	デハ8139	デハ8205	デハ8110	クハ8010	

凡例：

太字：当製品と同仕様

下線：増結3両セット(後日発売)

斜体：GM8500系軽量車で代用(但し張上げ屋根タイプ)

組立図

←渋谷・大井町
Tc クハ8000

二子玉川・桜木町・元町・中華街→

Tc車屋根板k

側板Tc車海側e

前面a

妻面(コック有)b

側板Tc車山側f

M1 デハ8100

避雷器(旧)n
又は
避雷器(新)o

M1車パンタ台付屋根板l

側板M1車海側g

妻面(配管有)d

妻面(コック有)b

側板M1車山側h

M2 デハ8200

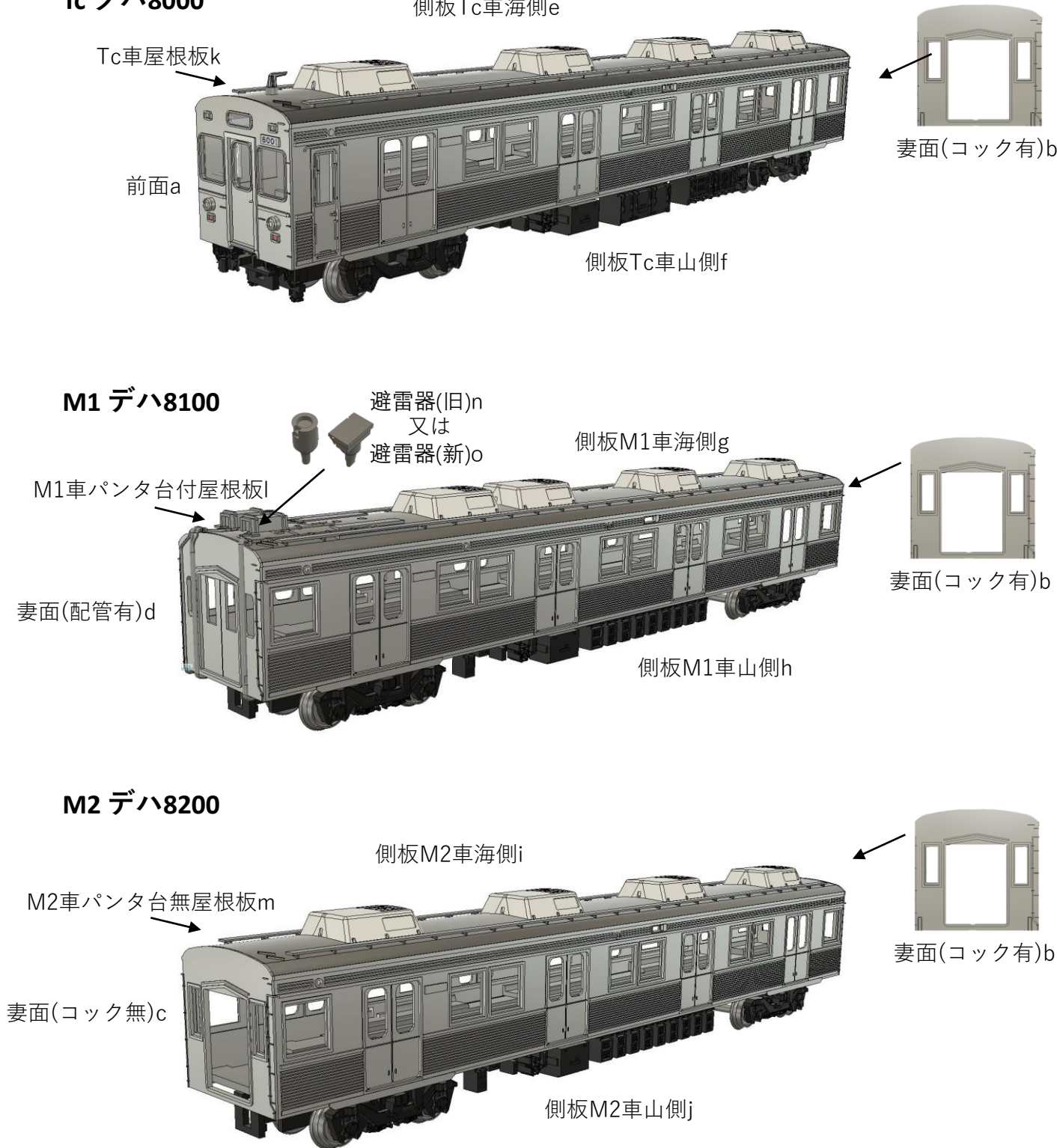
側板M2車海側i

M2車パンタ台無屋根板m

妻面(コック無)c

妻面(コック有)b

側板M2車山側j



組立説明・手順 (TKK8000系・8500系 共通)

1. 全てのパーツを中性洗剤で洗浄します

パーツ表面の油分を取り除き塗料の定着を良くします。

このとき歯ブラシを使用し、ぬるま湯で丁寧に擦るとよいでしょう。

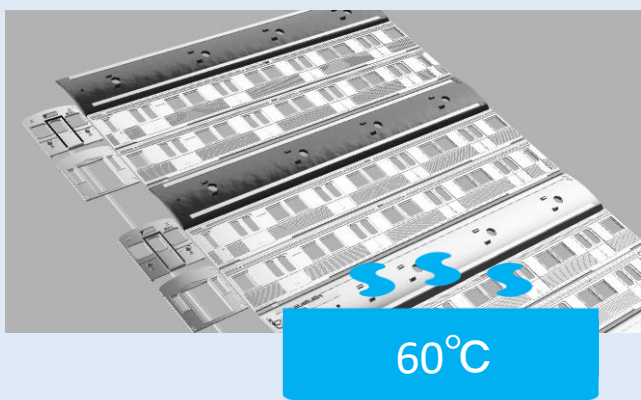
超音波洗浄器を使用すると、入り組んだ場所まで綺麗に洗浄できます。





2. 反りのあるパーツは60°C程度のお湯に浸し、手で矯正します

ボディや屋根板など、細長い板状のパーツは反りがある場合があります。軽微な反りはボディ接着の過程で矯正されますが、強い反りは60°Cほどの熱湯に浸すか、平板にヘアゴム等でプリント品を固定し、ドライヤーで熱することにより事前に矯正することができます。

熱湯を使用する際はやけどに十分ご注意ください。また、高温すぎると変形の原因となりますのでご注意ください。

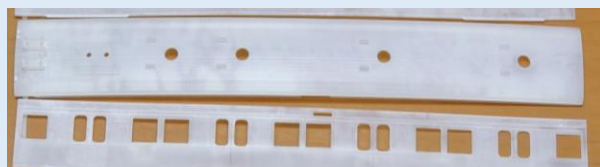


  やけどに注意

3. 積層痕形目立つ場合は、紙やすりで削ります

ボディや屋根板などの平面な箇所は、3Dプリントの特性上積層痕と呼ばれる木目のような凹凸が発生します。

そのような箇所は、#600～#1200程度の紙やすりで削り平滑にしてください。削りすぎてディテールを損なわないようご注意ください。



組立説明・手順 (TKK8000系・8500系 共通)

4. ボディ4面と屋根板を瞬間接着剤で接着します

3Dプリントの亚克力素材はプラモデル用接着剤では付きません。瞬間接着剤またはゴム系接着剤を使用します。

瞬間接着剤は、ゲル状の遅乾タイプを使用すると位置合わせが楽になります。

また、瞬間接着剤は白化現象が生じますので、塗装後や透明パーツに使用する場合はゴム系接着剤か、白化防止タイプの瞬間接着剤を使用するとよいでしょう。



妻板貫通扉の有無と屋根板パンタ台の有無、妻面Dコックの有無をよく確認して接着しましょう

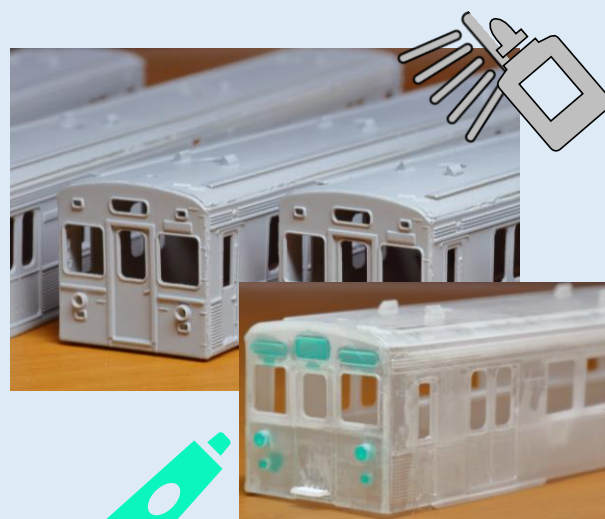
5. 全てのパーツにサーフェイサーを吹き付けます

3Dプリントの亚克力素材は半透明なため、サーフェイサーで下塗りして透けを防止します。

サーフェイサーは#1000～#1200のスプレータイプがよいでしょう。

小さな付属パーツ類は特にディテールが埋まりやすいため注意します。

ヘッド・テールライト・種別灯・行先表示器類透明部の表裏はマスキングゾル等で保護し、塗料が乗らないようにしてください。



⚠ 溶剤の吸飲に注意

6. ボディを塗装します

塗装方法は様々あるため、お客様のやりやすい方法で塗装してください。

ボディはシルバー、前面は再現する時代に応じて赤帯を入れてください。屋根は明るい青みが買ったグレーがよいでしょう。

弊社では、新水性塗料“アクリジョン”を調色しエアブラシで塗装しています。臭いが大幅に軽減され、体や環境にやさしいためおすすめです。



⚠ 溶剤の吸飲に注意

組立説明・手順 (TKK8000系・8500系 共通)

7. ボディやパーツに色を差します

前面Hゴムに黒、テールライトにクリアレッドで色差します。

Hゴムに色差しする際は、烏口を使うと便利です。

はみ出した箇所は、ボディの下地を傷つけないよう丁寧に爪楊枝で削り取ります。

避雷器は、再現する時代に合わせ新旧どちらかを選んでグレーに塗ります。



8. 窓ガラスを接着します

窓サイズに切り出した透明なプラ板や塩ビ板をボディ裏からゴム系接着剤で貼り付けます。

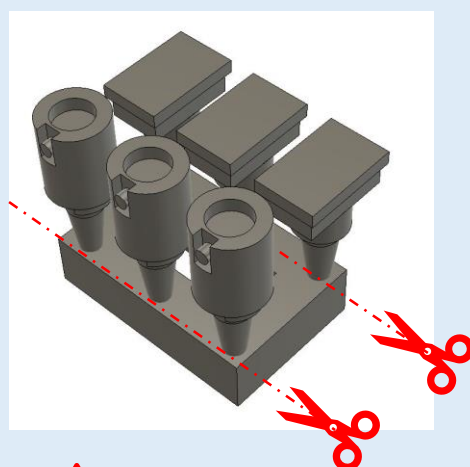
普通の瞬間接着剤は白化現象により透明パーツを白く濁らせてしまうので使用しないようにしましょう。




9. 避雷器をランナーから切り離します

避雷器は、差し込み式パーツですので取付足を残してランナーから切り離してください。

カットする際はパーツを傷つけないようご注意ください。



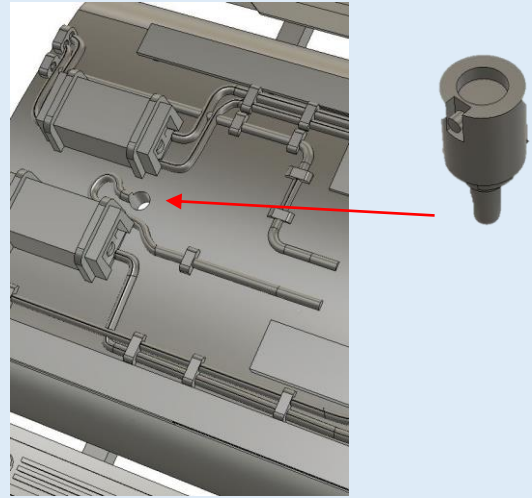
 差し込み式パーツの取付足を誤って切除しないようご注意ください

組立説明・手順 (TKK8000系・8500系 共通)

10. 避雷器をボディに差し込みます

避雷器をデハ8100の屋根上に設置します。

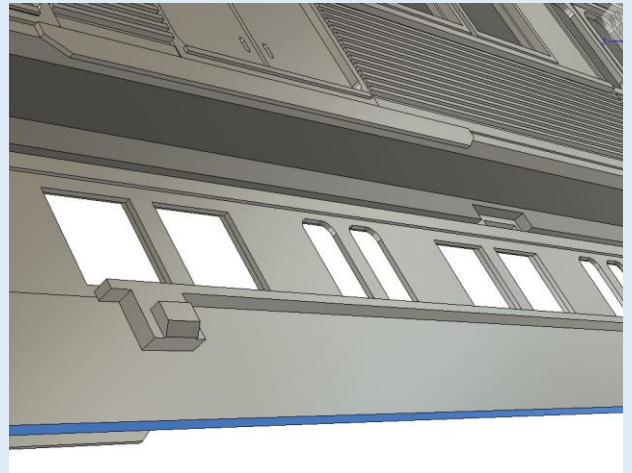
きつい場合は取付足をカットするか取付穴を広げてください。
ゆるい場合はゴム系接着剤等で固定してください。



11. 社外品パーツを取り付け完成!

社外品の床板や床下機器、台車、クーラー、列車無線アンテナ、パンタグラフの取付、ナンバーや社章などの表記類を入れて完成です。

ボディ裏側の凸ツメとGM8500系軽量車一体キットの床板凹みは合致するように設計されています。
床板取付の際は、このツメの凹凸をはめ合わせることで綺麗に取り付けられます。



完成!